

エンゲル係数 43年ぶり高水準

28.3% 24年消費支出は2年連続減



総務省が7日発表した2024年の2人以上世帯の家計調査によると、1世帯当たりの月平均消費支出は30万243円で、物価変動の影響を除く実質で前年比1・1%減となった。マイナスは2年連続。値上げが相次ぐ食品では野菜や果物の買い控えが目立った。消費者の節約志向の根強さが浮き彫りとなった。

24年の家計の消費支出に占

める食費の割合を示す「エンゲル係数」は28・3%と、1981年以来、43年ぶりの高水準。物価高に賃上げが追い付かず、食費が家計を圧迫する状況になっているとみられる。

消費支出の内訳では、「食料」が0・4%減。品目別では、コメは価格が比較的安定していた前半が堅調で4・4%増だったが、値段の上昇が顕著となった秋口以降に限れば支出は減った。魚介類は1・3%減だった。生鮮肉は2・2%、加工肉は3・1%のマイナスだった。生鮮野菜は4・9%減、生鮮果物は7・4%減だった。

肉類は、牛肉の代わりに値頃感のある鶏肉への支出が増えたという。

左の記事を読んで、下の問いに答えましょう。

1 傍線部①で、最も買い控えられたものを、本文中から抜き出しましょう。

2 2024年の1世帯当たりの月平均食費は、いくらか計算しましょう。(小数点第一位四捨五入)

3 傍線部②の値が高いほど、生活水準は「高くなる」「低くなる」のどちらでしょう。

4 傍線部②の値が高くなった理由を述べている部分を、本文中から1文で抜き出し、最初の3文字を書きましょう。

NIEワークシートのこたえ（2025年2月14日公開）

◆ワークシート「エンゲル係数高水準(社会)」
2025.2.8 朝刊 3面 解答

1 生鮮果物

2 84,969円

3 低くなる

4 物価高